

I 期(5歳児4月頃から5歳児10月頃まで)

①期待する子ども像

- ・自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる
- ・友達と互いの思いや考えなどを共有して、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したりする

②発達の流れ

目的をもって遊びを楽しめるようになる時期

経験してほしい内容

- ・自分のしたいことに向かって十分に組み込む。
- ・学級の友達に認めてもらう喜びを味わう。
- ・遊びや生活に必要なこと(腕まくりなど)を自分で判断して行動する。
- ・遊具を使った遊びを、友達と一緒に楽しむ。
- ・友達の発言や友達の考えに触れ、考え直したり、新たなことに気付いたりする。
- ・うまくいかなくても粘り強く繰り返し試行錯誤したり、工夫する面白さを味わう。
- ・友達とイメージを共有して目的のものを作り、一緒に遊びを楽しむ。
- ・はさみや段ボールカッターなどの道具を状況を考えて安全に使う。
- ・相手の気持ちに共感したり、自分の行動を振り返ったりして、考えて行動する。
- ・地域の身近な人と関わる中で、地域の人に親しみを感じたり、地域の行事に関心をもったりする。
- ・家庭や地域で経験してきたことを取り入れたり、友達と情報を伝え合ったり遊びに取り入れたりする。
- ・水などの性質を予想したり、方法を変化させることで結果を比較したりする。
- ・使い慣れた遊具を使って、ものと現象の関係性に気付き、発見の喜びを感じる。
- ・つくりたいもの、遊びに必要なものが本物らしくなるように、材料を選び自分なりに大きさなどを考えて繰り返し試す。
- ・自然現象の不思議さや美しさなど、遊びの中での発見の喜びを、言葉で伝える。
- ・これまでの経験を生かし、状況に応じて遊具を選択する。
- ・遊びのイメージに合ったものを、自分なりに紙にかいたり、材料を選んだりする。
- ・ものの数、箱の大きさや形、紙の量や長さ、重さなどの感覚を、実体験を通してつかむ。
- ・自分の思ったことやイメージしたことを言葉で伝え合う。
- ・遊びのイメージに合った材料やものを選ぶ。
- ・イメージを友達と共有して、物語の世界を楽しむ。

知識及び技能の基礎

思考力・判断力・表現力の基礎

学びに向かう力、人間性等

活動例

- ・年長児としての自覚(入園式、誕生会、歓迎会など)
- ・自分たちで生活を進めていく(当番活動、入園式、誕生会など)
- ・学級の友達とのつながりを感じる(園外保育など、)
- ・自然物や自然の事象に触れ、試行錯誤して遊ぶ。(砂、土、泥、水でダイナミックに遊ぶ)
- ・イメージをふくらませながら遊ぶ(〇〇ごっこ)
- ・ものの性質に十分に触れる(砂、土、泥、水、色水など)
- ・工夫してつくったり、かいたりする(遊びに必要なもの) など

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

＊遊びをとおして一体的に育みたい資質・能力を育む

＊「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、資質・能力が育まれている姿である
＊これらを念頭に指導を行う
＊到達目標ではない

④ 指導上の 配慮点	【自分たちの生活の場をつくってあげるように】 ○新しい場の使い方や物の配置、安全な行動の仕方、当番活動の内容などを幼児とともに考えたり場を整えたりして、幼児が自分たちで生活をつくり出していく意識をもてるようにする。 ○当番活動では、生活の中での必要感から、自分たちでできることを一緒に考えて、内容を決定する。 【友達と一緒に】 ○4歳時の遊びの中での経験を基に、幼児たちが興味をもった遊びのイメージをさらに膨らませて、やりたいことが十分にできるように、絵本、物語などを用意してイメージを豊かにできるようにしたり、身近な情報を提示したりする。 ○一人ではできない遊びの楽しさや友達がいるからこそできる楽しさを実感できるように、幼児の興味や関心に応じてダイナミックな遊びの経験ができるようにする。 ○「やりたい」「こうしたい」遊びの目的の実現のために、自分たちなりの方法で十分に試したり工夫したりする姿を見守り、幼児同士の関係性や遊びの展開に予測しながら、自分たちで乗り越えられる程度の困難かどうかを見極め、解決に向けたヒントになる言葉を掛けたり、具体的な手助けをしたりする。 ○うまくいかない場合はやり直したり、やり直すことでうまくいったりすることが体験できるように、幼児の取組を見守りつつ、自分で乗り越えられるように個々の幼児の力量に応じて手助けする。 ○ときには幼児の遊びを学級全体で共有する機会を設け、互いの遊びの気付きや面白さなどを共有したり、友達のよさに気付いたりする機会になるようにする。 自分で考える 友達と一緒に 実感を伴って (直接的・具体的な 体験をとおして)
⑤ 環境の 構成	【自分たちの生活をつくっていくために】 ○新たな場での安全な行動の仕方について共通に理解する機会を設ける。 ○幼児とともに、遊具や用具、生活に必要な物の置き場所や使い方を決め、自分たちで場を整え生活を進める意識が高まるようにする。 ○タイミングよく情報が取り入れられるように掲示したり、見通しをもちながら期待をもって取り組めるようなカレンダーなどの掲示を用意する。 ○遊びに応じて、自分たちですのこや足ふきタオルなどを用意するなどの始末ができるようにする。 【友達と一緒に】 ○5歳児用の遊具、友達と一緒に場を作る動きにつながりやすいような用具などを十分に用意する。 ○遊びの場の構成ができるように、試行錯誤が可能な遊具を用意し、幼児がそれを選んで使えるようにする。 ○場づくりに活用でき、幼児自身で運べる可動遊具を用意し、遊びのイメージに合わせた構成ができるようにする。 ○水を使った遊びでは、水を使う人数を考慮し、たらいから水を組むなど動線を工夫する。 ○それぞれの幼児の遊びを学級全体で共有する機会を設け、互いの遊びや様子を知ったり、互いの気付きを共有したりする。 ○次の展開を予想して、つくった遊びの場を残し、やりたい遊びを継続できるようにする。 ○これまで使い慣れてきた材料に加えて、遊びのイメージが際立つような大小、形の違い、性質の違うものなど様々な材料を用意する。 また、遊びの展開に応じてその都度、材料を用意したりして遊びに必要なものを、幼児自身が選んで使えるように用意する。 知識及び技能の基礎 思考力・判断力・表現力の基礎 学びに向かう力、人間性等
事例	・事例1 海賊になりたいー海賊ごっこー(4月)【P14～】 ・事例2 せっかくつくったのに全然できないー水路づくりー(5月)【P17～】 ・事例3 花火のショーをしようー空気砲を使ってー(6月)【P21～】

Ⅱ期(5歳児10月頃から1年生9月頃まで)

①期待する子ども像

・みんなと楽しみながら関わり、目的に向けて、自分で考えたり、工夫したり、協力したりしながら、あきらめずにやり遂げる
・様々な活動(授業)を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、必要感をもって取り組み、自信をもって行動する

②発達の流れ

目的を共有し、
自覚的に学んでいく時期

経験してほしい内容と活動例

・一日の流れの大まかな見通しをもち、時間を意識して生活する。

・集団での遊び、いろいろな運動遊びを楽しむ。

・思うようにいかない、うまくいかないなどの際、原因やよりよい方法を友達と一緒に考え、繰り返し挑戦する。

・自分にはない友達の考えを聞き、自分なりに考えた上で、自分の思ったことを伝えたり、よさに気付いたり、認めたりしようとしている。

・「〇〇だから△△がいい」という自分の考えや理由をもって、相手に伝える。

・思いや考えを言葉で表現し、伝え、相手に伝わる喜びや受け入れられるうれしさを感じる。
・新たな言葉の響きから、意味を想像し、イメージを広げていく。

・自分の主張が通らないことがあっても、自分たちの目的の実現に向けて、ときには自分の気持ちを調整し、友達と折り返し合いをつけながら、話し合いを進めていく。

・みんなで行う活動に、自分なりの考えをもって、共通の目的(学級全体の活動、飼育物の世話など)に向かって取り組む。

・自分の考えをありのままに出したり、その互いの考えを受け止め合ったり、受け入れ合ったりしながら話し合いを進める。

・文字や数の必要性や便利さに気付き、比べたり、分けたり、読んだり、書いたりする。

・文字やイラスト、写真などの情報、教師や友達の話などの情報を取り入れ、意味を理解して行動する。

・順番や勝敗のある遊びを通して人数、物の数を数えたり、物の量を比較したりする。

・身近な生き物に興味をもち、飼育するために必要なことを、図鑑で調べたり、飼育したりして、生き物の命の大切さに気付く。

・それぞれの表現を友達と認め合い、取り入れたり新たな表現を考えたりすることを楽しみ、集団の中の一員として自信をもって表現する。

【活動例】
＜継続して目的の実現に向けて進めていく活動＞

(例)
・2～4人で進める遊び、活動
・〇〇発表会
(劇、歌、絵、立体製作など様々な表現をとおして)
・生き物の世話
・当番活動

など
＜友達と話し合いをしながら進める活動＞
・当番の内容決め
・学級での困りごと

など
＜自分たちの思いや考えを表現し合う活動＞
・〇〇組ミーティング
・帰りの会

など
＜ものを使って試行錯誤する活動＞
・大小、長短など形の異なる道具や用具を使って(砂・土・泥・水)

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
＜様々な人との交流＞
・小学校体験
・地域の方とのふれあい

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

など
・鬼遊び
・ドッジボール
・リレー
・こま回し
・なわとび

接続のとびら

＊小学校教育の学習の始期を「とびら」という

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

ことばのとびら

かずのとびら

からだづくりのとびら

つくる・かくのとびら

うたのとびら

・・・

など

【国語】全教科をとして、「ことば」の世界をひろげていく

■日常のことばから
「おはようございます」「さようなら」「よろしくおねがいます」「ありがとうございます」「〇〇です」「〇〇していいですか」「〇〇してください」「(名前を呼ばれて)はい」

■教科書を開くことから
「はるがきた」
・教科書の絵を見て、入学前の経験も想起しながら気付いたことや想像したことを話す。個性や多様性を尊重しながら、クラスや学校生活を作り上げる意識の土台や学校生活や学びへの期待感につなげる。
→入学前の経験を思い出しながら話す。

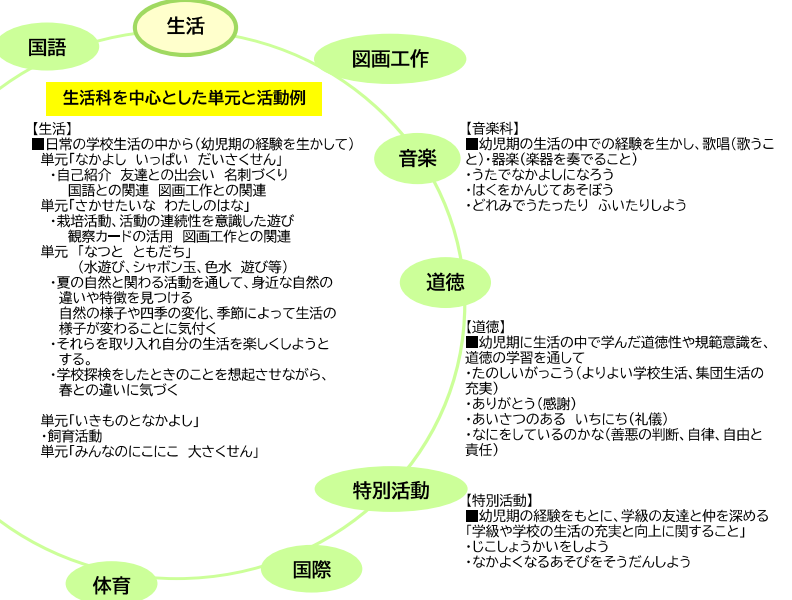
■さあはじめよう(ことばのとびら)
「話をよく聞くこと」「自分の思いを伝えること」「字を書くこと」「お話を読むこと(文字をよむこと)」
「あいうえおで あそぼう」
・声に出して楽しく読み、「あいうえお」に親しむ。
・幼児期の経験を生かして、言葉の世界を広げていく。

「おおきくなった」
・色 高さ 匂い 形 太さ 触った感じ 大きさ 重さ 数
「おおきな かぶ」「おむすび ころりん」
「どんな おはなが できるかな」 など

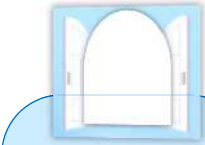
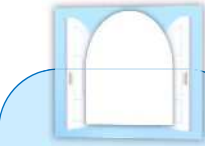
【算数】
■日常生活との結びつきで
・個人ロッカー「上から何番目」「友達と半分ずつ使う」
・自分の列のこと「1号車さん」・給食当番 白衣の番号(1番、2番…)
・牛乳配り「2本ずつ配ってね」
・同じ下校コース

■かずのとびら
・幼児期に育った数や量への関心・感覚を想起して、算数への学習の期待をもつ。
・教科書の写真を見て、保育園・幼稚園での生活を想起して。
・日常生活との結びつきの中で
「くらべたことが あるかな」
「なかまづくりとかず たりるかな」
「なかまづくりとかず おなじ かずの なかまを さがそう」
「なんぼん」
「合わせていくつ ふえるといくつ」
「のこり ちがう」
「どちらがながい どちらがひろい」
「かたちあそび かたちづくり」 など

単元配列表(*)を活用し、教師が各教科でどのような資質・能力を育成したいのかを意識し、児童の意識の流れを想定し、学びを展開する。



③園での体験や経験と各教科等の学習のつながり

④ 指導上の 配慮点	【保育士・教師との関わり】 ・学級や学年で活動する機会が増えてくるため、話し合いの機会には、ありのままに自分の考えを出していいという学級(クラス)の温かい雰囲気を大切に作る。 【自己発揮と協同性を支えるために】 ・友達同士の関係をつなぎ、受け止められた喜びを感じられるよう、教師は、言葉にならない思いを引き出す、補足する、よりよい伝え方をして見せるなどの援助をする。 ・自分とは異なる考えの相手とも素を出し合い、話し合いを進めていけるような道筋を示し、幼児たちが納得できるようにする。 ・幼児同士が協同して遊びを進められる関係性を基にしながら、学級全体の活動に主体的に取り組んでいけるよう、遊びの中からきっかけをつくったり、仲間として提案したりする。 ・一人ひとりの考えをじっくりと聞き、幼児のやりたい気持ちを実現できるように、話の論点がずれないように内容を整理して代弁したり、確認したりする。 ・幼児の考えたことが、他の幼児にも伝わるように言葉を補足したり、分かりやすい言葉に言い換えたりする。 ・一人ひとりのよさや考えが十分に発揮される機会をつくり、互いに認め合いながら活動を進められるようにして、自分たちでやり遂げる喜びを味わえるようにする。 ・生き物の世話をやりたいなど、みんなで協力して世話をする中で、生き物には命があることに気付いたり、命の大切さに気付いたりできるようにする。 ・教師も継続して遊びの見通しをもち、自然の現象など、その時期でしか味わえないタイミングを捉えて出合えるようにする。 ・教師も一緒に驚いたり不思議に感じたりして共感し、次なる目的を定めるなど意欲を引き上げていく。 ・遊びの中でうまくいかないことでも、原因を探ったり方法を変えたりして何度も取り組めるように幼児の考えを受けとめ、できそうだと信じて支える。 ・話し合いの時間を十分に確保する。	 ・子どもの「やりたい」「こうしたい」という意識の流れを大切に ・「必要感」を伴う展開を ・これまでの経験を生かした提案、計画へ ・具体的な場面が想起されるような言葉掛け ・子どもが考える時間を確保して	【教師との関わり】 ・授業規律をつくることを合わせて、児童の集中力を保つために、緩急をつけて、児童が、担任教師に対して親しみの気持ちをもてるような触れ合い、やりとり、遊びの時間を大切にする。 ・一人一人が安心して意見を出せるように、肯定的に受け止め、「学びたい」「やってみたい」という気持ちを引き出す。 【幼児期からの学びを継続していくために】 ・児童の意識の流れに沿った学習活動になるようにする。 ・保育園、幼稚園での経験は一人ひとり異なるため、子どもたちの経験や身近な生活の中から問いかけ、言葉を広げていく。 ・自分たちのこれまでの生活を振り返り、日常生活でやっていることと絡めて、展開する。 ・教科書の内容のみならず、自分たちの経験を発表したり、作品に活かしたりできる学習のゴールを設定する。 ・児童一人ひとりの体験や経験を十分に生かしながら、「もっと知りたい」「もっとやりたい」という意欲を育てられるようにする。 ・体験を通して、見付けたり、遊んだり、不思議だと感じたり、やってみたいと思ったりしたことを学習につなげる。 ・児童が、具体的な生活の場面やこれまでの経験を想起し、イメージをもちやすいような言葉かけをする。 ・何か困ったことや疑問に思ったことがあったときに、教師がすぐに正解を伝えたり、解決の方法を提示したりするのではなく、児童が考え、様々なことを試したり、友達と考えを出し合ったりしながら、解決に向かう姿を見守ることを大切にする。 ・児童の気付きや疑問を学級のみんなで考え、解決する楽しさが感じられるように、「みんなと一緒に」を意識した活動を展開する。 ・児童の「こうしたい」という気持ちや言葉を大切に、児童の中に「必要感」が伴うよう、展開を工夫する。 ・考える時間を十分に確保する。 ・学習の内容が楽しく感じられるように、より自由度の高い遊びを導入として取り入れるなど工夫する(2人組や、3、4人ほどでのグループで相談し合って進める)。 ・幼児期の経験を生かして生活科や他教科を進めることで、自分たちが提案、計画、準備、実行につなげていく。 ・そのような経験から、さらに「もっとやってみたい」という気持ちにつなげていく。
	⑤ 環境の 構成	【1期からの継続した環境】 ・日常的に、幼児の「やりたい」という思いを実現し、目的に応じたものをつくることができるよう、自分で選んで使えるような材料や道具を準備したり提示したりする。 ・一人ひとりがかためてをもって探究できる活動を用意し、繰り返し取り組むための場と時間を保障する。 ・全ての子どもが理解し納得して進められるように、黒板やホワイトボード、カレンダーなどには文字とともに、イラストや写真など補助情報を加える。 (話し合いの際のイメージの共有、話ことばや文字情報のみに偏らない配慮をする) 【自己発揮と協同性を支える】 ・期待をもって取り組むためにカレンダーや時間の経過がわかるような掲示などの工夫をする。 ・遊びのイメージがわくような絵本や物語など、用意し、幼児が繰り返し楽しんだりできるように置いておく。 ・一人ひとりが自分なりの考えをもって話し合いに集中できるよう、場の選定や集合の体型などを工夫する。 ・席のりなどの時間を日常的につくる。 ・当番活動の用具など、扱いやすいように、いつでもできるように用意する。 ・昆虫図鑑や生き物の飼育の本など、身近な場所に用意し、自分たちでいつでも調べることができるようにする。 【ICT機器】 ・幼児の興味や関心に応じた必要な情報を得られるようにICT機器(タブレット端末、マイクロスコープなど)を活用する。 【連携・交流】 ・小学校生活への不安を受け止めながら、「楽しそう」「てきそう」という期待や自信がもてるよう、小学校と綿密に打ち合わせを行い、無理のない交流や体験ができるようにする。	 ・自分で考えて行動できるように ・二人組や、グループの友達と一緒に楽しめるように ・具体物から半具体物を使って
事例	・事例4 みんなでやればいいんじゃない?—劇づくりの話し合いへとつながるプロセス—(11月~12月) 【P26~】 ・事例5 僕が幼虫のお世話をしたい —当番の仕事— (11月) 【P34~】 ・事例6 氷をつくりたい —氷の実験— (2月) 【P38~】 ・事例7 全然、決まらない—みんなで遊ぶ遊びを決める—(3月) 【P42~】 ・事例8 ことばのとびら—国語科の取組例—(4月) 【P47~】 ・事例9 かすのとびら—算数科の取組例—(4月) 【P53~】 ・事例10 算数科—単元「ながまづくりとかす」—(4~5月) 【P58~】 ・事例11 生活科を他教科とつなげる —単元「なつと ともだち」—(6~7月) 【P64~】 ・事例12 特別活動—「みんなのためになる かかりをかんがえよう」—(6月) 【P71~】		

Ⅲ期(1年生9月頃から1年生3月頃まで)

①期待する子ども像

- ・経験で得たことを生かし、主体的に学習に取り組む
- ・学級の一員としてみんなでやることの楽しさを感じ、見通しをもって粘り強く取り組む
- ・自己発揮や自己調整の中で、自分の世界を広げていく

②発達の流れ

前の経験を生かしてより一層、自覚的に学習する時期

【国語】
■Ⅱ期に続けて、全教科をとおして、「ことば」の世界をひろげていく

- 「こえに だして よもう」
 - ・詩の音読をしたり、冬にまつわる詩から冬の語彙を増やしたり、様子を知る「くじらぐも」
 - ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する
 - ・読んで想像したことを伝え合う「じどう車くらべ」
 - ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解する
 - ・事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる

- 「てがみで しらせよう」
 - ・文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする
 - ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する

- 「ものの 名まえ」
 - ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づく

- 「ずうっと、ずっと、大好きだよ」
 - ・文章を読んで感じたことや分かったことを共有する
 - ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解する
 - ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ

【算数】
■Ⅱ期での学習経験を生かし、徐々に抽象的な視点で物事を考える力を養う

- 「なんじ なんじはん」
 - ・絵を見て、1日の生活と関連づけながら何時、何時半の時刻を読む
 - ・模型時計を使って、表された時刻を読んだり、指示された時刻を表したりする「どちらが おおい」
 - ・身の回りにあるものの体積に関心をもち、直接比較の方法で比べる
 - ・身の回りにあるものの体積を、間接比較の方法で比べる
 - ・身の回りにあるものの体積を、任意単位を用いて、数として表したり、比較したりする方法を考え、説明する「たしざん」
 - ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法(加数分解)を理解する。
- 「かたちあそび」
 - ・箱などの身の回りの具体物の概形や特徴、機能をとらえる
 - ・立体図形を構成する面の形に着目して、平面図形を見いだし、説明する

単元配列表(*)を活用し、教師が各教科でどのような資質・能力を育成したいのかを意識し、児童の意識の流れを想定し、学びを展開する。

生活

生活科を中心とした単元と活動例

【生活】

- 単元「あきと ともだち」「さあ、なににあそぼう」
 - ・秋の自然物を利用して遊ぶ楽しさや不思議さに気づき、工夫しながら楽しく遊ぶ。
 - ・園児との交流会「あきまつり」の計画・実行を通し、お互いの取組の良さに気づく。
 - ・相手を意識した活動を展開
 - ・交流活動(秋祭り、お店屋さんごっこ等)
 - ・秋の自然物を活用して(木の実、はっぱ、色)
 - ・あきを見つけたよ

- 単元「ふゆとあそぼう」
 - ・秋からの変化に気付く
 - ・かぞくといっしょにおしょうがつ
 - ・みんなかせの子

- 単元「もうすぐ みんな 2ねんせい」
 - ・もうすぐ2年生
 - ・成長した喜びを味わう
 - ・自信をもって行動する
 - ・1年間を振り返る活動
 - ・2年生に向けての準備

体育

- 【体育】
 - Ⅱ期の学習経験を生かして、友達との動きのよさに気付いたり、仲間とともに活動する喜びに触れる
 - ・体ほぐしの運動遊び
 - ・固定施設の遊び
 - ・鬼遊び、かけっこ、
 - ・ボールを使った遊び等を取り入れる

図画工作

【図画工作科】

- Ⅱ期の学習を生かし、さらに詳しく、鑑賞する活動や絵に表す活動、立体に表す活動、造形に表す活動、工作に表す活動に取り組む。
- 「おひさまにここに」(絵)
 - ・題材は同じもので自由に絵を描く
 - ・色混ぜの工夫
- 「ひもひもねんど」(立体)
 - ・ひも状にした粘土を使い、並べる、丸めるなどの観点を示し、食べ物、動物などカテゴリーを絞って立体作品をつくる。
- 「わくわく おはなし すごろく」(工作)(鑑賞)
 - ・身近な材料を使ってみんなで楽しめるものをつくる。

音楽

【音楽科】

- Ⅱ期で経験した歌唱(歌うこと)・器楽(楽器を奏でること)に加え、音楽づくり(音楽をつくること)・鑑賞(音楽を聴くこと)をする。
- ・ようすをおもうかべよう
- ・いろいろなおとをたのしもう
- ・にほんのうたをたのしもう
- ・おとをあわせてたのしもう

道徳

【道徳】

- Ⅱ期で学んだ道徳的価値をさらに増やし、生活の中で実践する。
- ・うまれたてのいのち(生命の尊さ)
- ・ひつじかいのこども(正直、誠実)
- ・かぼちゃのつる(節度、節制)
- ・二わのこどり(友情、信頼)

特別活動

【特別活動】

- Ⅱ期で学級の仲を深めた経験を生かし、さらに学級のみんなが気持ちよく過ごすためにできることを考える。
- 「みんなのためになる かかりをかんがえよう」
 - ・経験をもちに、学級の児童が生活しやすく学校生活が楽しくなるための活動を出し合い、係を考える。

国際

【国際】

- Ⅱ期の学習経験を生かし、英語を聞いたり話したりする
- 「世界の行事を知ろう」
 - ・ハロウィンやクリスマスの歌やゲームを通じてコミュニケーションを楽しむ
- 「体の部位を知って楽しもう」
 - ・顔や体の部位について、英語で聞いたり、言ったりする。
- 「学校を英語で紹介しよう」
 - ・教室の場所を伝える活動を通して、コミュニケーションを楽しむ

「幼児期の終わりにまで
に育ってほしい姿」

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の
芽生え

社会生活と
の関わり

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量・図形・
文字等への
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

*1年生の終わりの姿との
比較で成長を確かめる

③
園での
体験や
経験と
各教科等
の
学習の
つながり

④ 指導上の配慮点	【Ⅱ期での学習経験を生かし、徐々に抽象的な視点で物事を考える力を養うために】 ◎「教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」と学習指導要領に記載されていることを、Ⅱ期目に引き続きⅢ期でも大切にしていく。 【生活科】 Ⅱ期での学習同様、具体的な活動や体験を行う中で、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする姿を大切にする。 - 体験活動の際には、十分な活動時間を保障した上で、児童が安心して活動できる空間の確保に努めることが大切である。 - 町探検などの活動では、不思議に思ったことや詳しく聞いてみたいことなどを繰り返しインタビューしたり調査したりして、新しい情報や自分だけの情報を収集できるよう言葉掛けや事前学習に努める。 - 集めた情報を新聞やポスターにまとめたり、パンフレットにしたりして地域の人たちに発信していくことや、地域についての発表会に発展することを想定し、児童が学習の成果を感じられるよう工夫する。 【国語】 「話すこと」については、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することを大切にすること。 「聞くこと」については、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことを大切にすること。 「書くこと」については、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることを大切にすること。 「読むこと」については、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことや、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することを大切にすること。 【算数】 - 具体的な活動や体験から、半具体物を用いた学習へと移行し、抽象的な視点で物事を捉えられるよう指導を工夫すること。 - 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、数量や図形についての感覚を豊かにすることを大切にすること。 - データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉えることができるよう指導を工夫すること。 - 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養うようにすること。 【体育】 - 各種の運動遊びの楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けられるように、指導計画を工夫すること。 - 各種の運動遊びを通して、考えたことを友達や教師に伝えようとする姿を大切にすること。 - 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養うようにすること。 【図工】 - 手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにすること。 - 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたりすることができるようにすること。 - つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養えるよう指導を工夫すること。 【音楽】 - 音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けられるように、指導計画を工夫すること。 - 音楽表現に対する思いをもつことや曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるように、指導計画を工夫すること。 - 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を育めるようにすること。 【国際】 - 日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにすること。 - 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うようにすること。 【特別活動】 - 学級や学校における生活をよりよくするため、自分の考えをもつことができるよう、指導計画を工夫すること。 - 友達の考えを聞きながら、よいところを見付けたり、自分の考えと比べたりして、課題解決へ向けて話し合うことができるよう支援すること。 【道徳】 - よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うことのように気付くよう指導を工夫すること。 - 気付いたよさを、普段の生活に生かそうとする態度を養えるようにすること。
⑤ 環境の構成	【Ⅱ期での学習経験を生かし、徐々に抽象的な視点で物事を考える力を養うために】 - 教師との対話を基本としながら、場面に応じてグループ、チームなどで取り組めるようにし、互いの考えを伝え合ったり聞き合ったりするなど、児童同士の関わりをつなぐ支援をする。 - 教室の一角に学級文庫を置き、登校してから朝の会などが始まる前までの時間や、休み時間などで各自が読めるようにすること。 - 算数ブロックなどの半具体物のほか、実物や、数字をかけたカードなど、複数の選択肢を用意し、自分で選択して、自分の方法で取り組みるように工夫すること。 - 課題やヒントの提示の仕方、提示のタイミングなどを工夫すること。（ヒントを出す方法として、カード、シンキングツール、グループによる相談など） - 思いや願いの実現に向けた主体的な学習活動となるよう、学習材料や、学び方を自分で選んで進められるような環境づくりをする。（例、タブレット端末の活用） - そうすることで、自分たちで活動が進められるような素地をつくっていく。 2時間続きの学習活動では、より学びが深まるようにするために、児童同士の関わりや、活動量、次への意欲が高まる仕掛けなど、展開の仕方を工夫すること。 - 発表された単語を掲示しておくことで、授業が終わっても掲示物を見ることで単語を考えることができ、「もっとあるかもしれない。」と、学びが続いていくようにすること。 - ノートに書く、短冊に書いて掲示物にプラスして貼るなど、拳手をしなくても自分の気付きを表現できる場をつくる。 - 学習としての用語を意識的に使うようにすること。 - わかりやすい言葉で指示を出す。シンプルな声掛けにする。 <ICT機器> - タブレット端末などICT機器を活用し、自分の考えを表現したり、友達の考えを見たりできる場をつくる。 - 考えを共有し、さらに話し合ったり、ICT機器を活用して意志表示したりして、考えを深める場をつくる。 - 写真や動画撮影の機能を活用し、記録できる環境を整える。 - 様々な方法で記録したことを活用して、よりよく自分の考えを表現できるような環境を整える。 <連携・交流> - 学年の教師集団での情報共有を密にし、児童や保護者の様子を把握すること。 - 他学級との交流を大切に、活動を計画的に行う。 2年生との活動を計画し、次の学年への見通しをもつとともに、4月には新しい1年生を迎える意識づけをする。 - 幼稚園・保育園との交流では、生活科「秋まつり」などがある。準備の段階では、学年の友達と助け合ったり協力し合ったりして、一緒につくり上げる楽しさに気付かせられるよう計画すること。 - 本書では、幼児に自分たちが考えたことを表現する経験を通して、年下に譲ったり、わからないことを教えてあげたりして、一緒に遊ぶ楽しさや友達のよさに気付かせられるよう工夫すること。
事例	- 事例13 生活科―単元「あきと ともだち」―(10月)【P82～】 - 事例14 国語科 ICT機器の活用をとおして―単元「こひは、なんでしょう」―(1月)【P86～】